未来を担う子供たちのために～しつけやマナー～

活動先名：特定非営利活動法人もやい

（１）活動先紹介

NPO 法人もやいでは、助け合いの輪（和）を拡げ、やがて迎える「老い」を豊かなものにし、誰もが安心して「子ども」を生み育てられる地域づくりを目指している。

今年、納屋を改造して作ったスペース「もーちゃんハウス」を活用して、夏休みの子供たちに様々な体験の機会を提供するプログラムも新たに加えられ、私たちの活動の場となった。

（２）当初の活動目的、目標

活動目的：今まで使っていなかった場所を、利用者が安心して利用できるような空間にする。そして、もやいを利用する人達がほっとできるような場所作りをする。

目標：もやいのあたたかさを地域に広めよう。

（３）自分たちの活動内容

- お抹茶会：とても大きい大茶碗でお抹茶を飲んだ。お抹茶に合う和菓子も子どもたちと一緒に作り、お茶会の作法に従って行った。県の職員さんもみえたので、和菓子を運んでもてなしをした。

- 流しそうめん：昼食会のなかで、デイサービスの利用者さんや子供たちと流しそうめんをした。そうめんだけではなく、フルーツや杏仁豆腐を流して楽しくみんなでご飯を食べることができた。

- 水墨画：墨と筆を使い、山を書いた。

- 太極拳：講師の方に教わった。ゆっくりした動きが難しく、普段使わないような筋肉を使うので体が痛かった。子供たちも頑張ってマネしていた。

- 子どもたちの宿題を見る：小学生の算数を教えた。筆算の掛け算や割り算、割り算の文章問題があり、子どもは一生懸命問題を解いていた。しかし集中力が切れて途中で飽きてしまう時もあったので、問題を面白く読んであげるなどして工夫をした。

- お泊り会

［午前中］

ガーゼ染めをした。ガーゼにビー玉やおはじき、わりばしなどを輪ゴムで止めて柄を絞り、その後赤や青などの染料で染めた。

［午後］

午前中に作ったガーゼ染めを干して、乾いたら色止めをしてまた干した。午後のバーベキューの準備で火起こしを始めたが炭に全く火がつかず、結局もやいの方に炭をコンロで焼いてもらって火を起こす事ができた。バーベキューではお肉、ソーセージ、野菜、エリンギ、大アサリなどたくさ

ん焼いて、更に飯盒炊爨をしてご飯も炊いた。全部とても美味しかった。

［夜］

バーベキューの後は天体観測をした。半田市の空の科学館のふくろうの会の方に依頼して天体望遠鏡を持って来て頂き、もやいの庭で行った。最初に星や月の説明があって感心した所で実際に望遠鏡で観察した。もやいの方や参加してくださった方達がとても感動していて、喜んでくれているのを見て、やって良かったと思った。そしてその後はもーちゃんハウスに蚊帳をつって泊まる予定だったが、新型インフルエンザ流行の為にキャンセルになった。

（４）活動における問題点・課題

子供に対して…

・子どもたちに叱るとき、本気で叱れなかった。
・子どもに対して叱るとき、何故いけないことなのかという背景を説明する必要があった。
・ 子どもとただ遊ぶという考えで子どもと接していた。

私達が活動に行って…

・活動における考え方が甘かった。
・自分たちの意見ばかり主張し、もやいの方の都合を聞かなかった。
・共通の話題を持っていなかった。
・１日の活動が終わった時に、ふりかえりを行わなかった。
・他のメンバーとの連携・引き継ぎがしっかりと行えなかった。
・次の活動につなげるという意識でがなく、その日の活動が無事に終わればいいという考えがあった。
・活動に臨む時に、目標設定をあまりしていなかった。
・活動の連絡ノートを作成する必要があった。
・主観的に考えてばかりで、客観的に考えていなかった。
・職員の方・利用者に対しての言葉づかいを、気を付ける。

（５）サービスラーニングを通して学んだこと・理解したこと・成長したこと

学んだこと

NPO という団体がどんな活動を日々行っているのかということを、身をもって体験し社会の厳しさや厳しさの中に隠れている優しさに直接触れることができた。

理解したこと

講義中も活動中もとても厳しかったが、その厳しさには、理由があり私たち学生が今後成長し大学を出て社会に出るときに恥をかかないように苦労しないように今できることをしっかりとしておかなくてはいけないということを教えていただいているのだということを理解した。

成長したこと

今まではとても他人任せの部分が多く誰かがしてくれると言う気持ちが大きかったが、活動にいき自分から積極的に何かアプローチをかけなくてはいけないのだということを発見できたと言うことが一番大きいのではないかと思う。

（6）グループ研究の成果を踏まえて、今後に学びをどう活かすかの抱負

子どもに対しての叱り方、子どものマナー、礼儀などは課題だったが、そのためには子どもと一番接する機会がある親の意識を変えていく必要があると考え、「平成 19 年度家庭教育支援に関する地域の教育力の活性化に関する調査研究報告書」を参考にグループ研究を行った。

調査研究報告書の中のアンケートでは、「基本的な生活習慣や生活態度を身につける（89.6%）」という結果があり、私たちが課題にしている子供にマナーを身につけて欲しいと考える人が多くいる。さらに、「良いことと悪いことを判断する力を身につける（83.2%）」という結果もあり、親も何が悪くて、何が良いのか分かっていないことから、子供に教えられないのではないかと考えた。

また、「子供に対して過保護、過干渉な親が増えている（74.3%）」「子供に対するしつけや教育の仕方が分からない親が増えている（74.0%）」という結果からも、親に問題があることがうかがえる。そのようなことから、次にこのような活動をする場合には、子供との関わりに必ず親も伴うプログラムを提案したいと考えた。

（7）活動先への提案

<u>グループ研究の結果からの提案</u>

施設は子どもにいろいろな体験をさせてやりたいと思っている。しかし親側は子どもを預かってくれればいいと思っているかもしれない。この食い違いを解消するには、子どもたちがまだ小さい時期の親への働きかけが必要で、前述の調査研究報告書で紹介されていた以下の事例が参考になると考える。

<u>事例：お寺を会場にした子育て支援活動「ぴょんぴょん寺子屋」</u>

＊事業のねらい

子育て・孫育て中の人たちが気軽に集まって、自由に話したり遊んだりできるつどいの場、情報交換の場を提供することをねらいとしている。

＊対象者

乳幼児（0 歳から 3・4 歳）と子育て、孫育て中の親と祖父母（母親や祖母の参加者が多い）

＊活動の実際

現在は、平均で 20 組、多い時で 60 人ぐらいが参加、大人に目をやると、子どもを遊ばせながら、あるいはスタッフに子供をみてもらいながら、若い母親同士で話に花を咲かせている。孫を連れてきた祖母の方々も若い母親やスタッフたちと談笑している。お茶を飲みながらの情報交換や悩み相談が行われ、若い母親同士で情報交換したり、ちょっとした育児のアドバイスも若い母親にとっては心強いはずである。

＊プログラムの特徴

ア：大学がプログラムを企画・実践すること

イ：地域の人材の活用

ウ：保健センターとの連携

＊事業の成果

子育て中の人たちが、気軽に集まり、育児の悩みを相談できる場が求められている。元気になっているのは親子だけではない。スタッフの方々も心にハリがでてきて生きがいとなっている。地域の大人が子縁でつながり、こども、親、高齢者の三世代の交流を通してみんなが元気になっている

点が、成果といえる。

<u>グループでの振り返りの結果からの提案</u>

・活動先に若い人材を入れればより柔軟な発想が生まれるかもしれない。
・親と子どもが一緒に参加できるイベントを考える。
・発達心理などを学び、子どもの気持ちに少しでも近づけるようにする。
・子どもと高齢者がふれ合えるような機会を設ける。そうすれば子どもたちは思いやりの心が増すのではないか。
・もやいの存在をもっと多くの人に知ってもらえるような PR 方法を考える。
・施設側の考えを親は理解しているか。
・子どもたちはどんな気持ちでもやいを利用しているか知る必要がある。
・親と施設の交流も大事ではないか。

（８）次年度のサービスラーニングを行う学生へのアドバイス

・サービスラーニングを通して何を得たいのか目的意識を明確にする
・活動先がどのような活動を望んでいるのか明確にする
・グループ内で情報の共有をすることが大切
・活動先と情報を共有することが大切
・情報の共有をどのようにしていくか（ノートを作るなど）
・活動先と活動の計画を細かく立てる
・活動の準備をする
・問題はそのつど解決する
・楽しんで活動する
・ＮＰＯがどんな活動を行っているか知れる

〇サービスラーニングでは、活動先とお互いに必要とする活動をしていくことが大切である。そのために、活動先と共通する目標を設定することや目的を明確にすることが必要だと思う。こうすることで、計画が立てやすく、どのような準備が必要かもわかってくるのではないかと思う。また、活動の内容をよりよいものにするためにも活動中の情報共有が大切だと感じた。実際に活動してわかることや活動中に生じる問題が出てくると思うので、こういった情報をグループや活動先と共有することで内容を深められるような活動ができると感じた。

☆活動後の授業では、体験したことをもとにみんなで問題だったと思うことを掘り下げていくことで、活動中には気づかなかったことが見えてくる。また、活動先の方とのミーティングもある。活動中の私たちに対しての思いも知ることができ活動を振り返る際にとても参考になる。

資料参照

平成 19 年度家庭教育支援に関する地域の教育力の活性化に関する調査研究報告書